

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

平成12年12月(2000年)No. 420

## 20世紀最後の発表会は満員盛況 好評だった第40回映像フェスティバル

今年のOMC映像フェスティバルは、去る11月25日難波市民学習センターで13時10分より開催されましたが、会場で追加の補助椅子を出すほどの満員盛況の盛会でした。第40回の節目の年で、記念事業として前会長の小倉宝蔵さんと前々会長の川畑健二さんの作品2本を上映しましたが、それぞれの時代の代表作品だけに見ごたえのある作品だったと思います。会員諸氏の作品につきましても、さすがOMCの発表会だけに内容的にハイレベルで良かったと評価の声を多数寄せられてほっとしております。

来年には21世紀最初の年の発表会です。今年以上によい作品を並べたいものです。作品研究会の場を活用され、1人1作でもよいから、これぞグランプリ作品と胸を張れる作品に取り組んで欲しいと願っています。

それはともかく、映像フェスティバルのために、元会長の川畑作品のテレシネ化に取り組んで頂いた前田さん、前会長の小倉さんのHi8作品を再編集のうえDV化作業をやって頂いた関さん、全作品のDV一本化及び当日上映にお骨折り頂いた藤原さんをはじめ、いろいろと役割分担と観客動員にご協力いただきました会員諸氏に厚く御礼申し上げます。(合原)

## 新年会兼総会は1月14日(日)18時より開催

昨年同様、法善寺横町の「さと」にて行います。ぜひご参集ください。詳しくは別紙にて。よろしく申し上げます。

### 12月例会と作品研究会のお知らせ

— 第3土曜日16日です。お間違いなきよう —

12月例会は、恒例により第3土曜日16日18時よりとなりますので、お間違いないように願います。今年最後、大げさに云うなら20世紀最後の例会です。二次会も含めて楽しいひとときを過ごしましょう。

作品もどうぞお持ち下さい。作品研究会は13時30分～15時50分(世話役会が16時から行われますので早めに終了)まで。自由作品で特に助言や意見など求めたい作品や未完成作品でもどしどしお持ちください。

## 11月作品研究会のレポート

今年はいつもの第4土曜日が OMC フェスティバルのために1週間早くなったためか、会員諸氏の集まりが8名と10名を切るやや淋しい研究会となりましたが、作品の方は8本と多く、時間をかけてゆっくりと研究会らしい雰囲気での会を進行しました。

1. 追悼、小倉前会長、川畑元会長のプロフィール：合原氏5分
2. 魍魎譚：関氏、2分40秒、以上2本フェスティバル上映作品。
3. エギュ・デュ・ミディ観光：有村氏7分24秒、ロープウェイで3800mまで登られたが霧でモンブランは見えなかったという残念編。タイトルだけでは判りにくいという意見も。夏でも寒いスイスの山のお話。
4. ヒマラヤの上を飛ぶ：合原氏5分39秒、中国側よりネパールのポカラへ入るときの上空から見た冬のチベットとヒマラヤの峰々及びエベレスト山が圧巻。
5. こいや登り：増池氏、6分15秒、大阪で始まった新しい祭りで高知のよさこい祭りにあやかった若者のエネルギッシュな踊り。舞台撮影のポイントについて助言あり。
6. 新年アリュシャの家で：江藤氏4分32秒（夜の例会でも上映され関氏の評があるのでここでは略）。いろいろな助言で江藤氏も納得。
7. セブマクタン島：森田氏11分。水中撮影について話題集中、曇天なのが惜しい。地図の出し方にも助言あり。
8. 舞台袖：上総氏7分。パソコン編集第1作？踊りの会の舞台撮影の記録。現場音の扱い方や舞台撮影の作品化についてしばし話題集中。

以上で作品研究会を終え、例会へ向けて夕食のため地下街へ散会。

## 11月例会のレポート

研究会に引き続いての例会での集まりが懸念されましたが、20名の参加者と12本の作品でますますの盛会となりました。今月の司会は合原氏、書記に関氏、デッキ係に渡辺氏と奥氏、受付兼照明係に安居良枝さんと増池氏の担当で会を進行しました。

■出席者：有村、江藤、奥、渡辺、関、合原、増池、森田、安居夫妻、今井、前田、河合、森口、金子、森下、江村、中尾、那須、山口の20名（敬称略）。

■上映作品（今月の講評は関世話役です）

### 1. 新年アリュシャの家で 4分30秒 江藤洋司さん

海外旅行を撮ったものでハバロフスクは初めてです。ロシア革命が起きてからクリスマスは一週間遅れということ。ただし、今もなおロシア全域の習慣かどうかは聞き漏らしました。それはともかく、これが作者のパソコン編集第一号だそうです。藤原さんのたった一日の指導でここまでできるとは……。若い人は頭が柔軟で羨ましいと思います。内容は一般家庭で楽しく過ごしたクリスマスと新年のもようですが、カットの切り残しやテロップの出し方について助言がありました。これからは撮影方法なども研究し、より良い作品づくりを目指してください。

### 2. 多武峯紀行 8分 有村 博さん

撮影時期がまだすこし早かったかな。談山神社の朱色に劣らないほど見事に染まるもみじですが、今年もまた紅くならないうちに散ってしまうのでしょうか。建物や風景を見せながらそこにまつわる歴史を語る。8ミリ時代から延々続いてきたアマチュアならではの手法、この種の作品はやっぱりナレーションが優先することになります。とくに年代や人名の羅列は歴史にあまり関心のない人にとってその興味は半減し、ことさら感動もなく印象にも残りません。

もっとも談山神社の蹴鞠行事が目的だったそうで、すでに終わったあと。仕方

なく風景を撮ったというお話でした。作品的に冴えないのはそんな予想外の出来事によるのかもしれませんが。

**3. ポルトガルの海沿いに行く** 11分25秒 合原一夫さん

撮影を目的に設定された旅行だそうです。パックスツアーでは訪れることのない小さな町とひなびた漁村風景、そして観光ずれしていない素朴な人々。カメラに向いてひとり踊るお婆さんが印象的でした。聞きなれた合原節ですが“ご馳走”を「おごちそう」というのはすこし変です。また「はかば」ではなく“墓地”と言った方が適切だと思います。それに漁師が手にする長いぬるっとした感じの薄気味悪い魚。アップで撮っていますが説明はありません。

**4. 猿の世界** 5分45秒 増池 茂さん

動物園の猿山。繁殖シーズン直後で子猿がたくさん遊ぶ楽しい映像ですが、金網がたいへん邪魔になっています。それにタイトルが大きさです。

**5. 秋の公園** 4分25秒 安居良枝さん

10月の作品研究会に「秋のうつほ公園」を出品され、その際一度ノンナレで挑戦してみても、という勧めで再度撮影に行かれたそうです。すでに決めていた音楽を頭の中で演奏しながら撮影されたということ。絶妙のバランスで配置した超アップ画面にはシュール・レアリズムにも似た強烈な印象を受け、まるで別人のような作品に驚きました。重要であるはずの音楽が入力オーバーになったのは残念。それと題名が内容に合っていない、と司会者の指摘がありました。もともとポエム的傾向の作風を得意とし、ご主人とは一線を画しておられるかと思っていたのですが、最近はおなじ枠のなかで競合しているようにも見えます。ここで証明されたとおり斬新な感覚の作品もお作りになれるのですから、もう一度初心に帰って自由奔放な制作態度で自己主張されたいかがでしょう。

**6. ちんちん電車は行く** 8分 安居利次さん

上町線の駅名の謂れを、その元となった古刹にレンズを向けながら紹介しています。創設当時、北のターミナルは四天王寺西門前だったとか。そういえばJRを跨ぐ阿倍野橋の路面に終戦直後まで線路が残っていたのを覚えています。たいへん判りやすいナレーションで、敷設からここに至までの過程と現在の社会でこの電車のおかれている状況がよく理解できました。

**7. ぶらり旅・シドニー** 5分 今井羨美さん

ノンリニア映像、きれいですね。ただ、前後があまり関連性のないカットつなぎで成りたっています。地球の向こう側なのに「ぶらり旅」のタイトルはおかしいとの指摘がありましたが、とくに凝った「作品」を目指したわけではなく、肩肘張らない気楽な旅という意味に私は解釈しました。

**8. 旅愁・斑鳩にて（リバイバル）** 4分25秒 前田茂夫さん

かつてフィルム時代（S55年）のOMC撮影会作品。布施明の唄う同名の曲がバックに流れる歌謡映画です。当時の歌謡曲映画コンクールで銀賞に選ばれたもの。非常に歯切れのよい編集はいまでもじゅうぶん通用すると思います。

**9. 残っていた自然** 4分50秒 河合源七郎さん

隠岐に付随する島々のひとつ知夫里島。おおあおとした草原が島全体を覆い、足の太い道産子に似た馬や黒牛がのんびり草を食む。連絡船が一日にたった一便のこの小さな島に作者が求めたものは可憐な花をつける野草でした。8月の作品でも野生のハマナスを追ってわざわざ知床の果てまで出掛けられています。作者はたいへん花がお好きと聞きました。それは人の手で育てられたものではなく、自然のなかにひっそり咲く野の花をことのほか好んでおられるようです。そんな野草と出会うため遠路はるばる時間も惜しまないとは・・・。作

者の自然を愛するやさしい心に頭が下がります。

10. 出石お城まつり 9分 森口吉正さん

導入、展開、終章、そしてナレーション。どこを見てもまったくそつのない実に見事な構成。この種の紀行物で作者の右に出る人はもう存在しないのではないのでしょうか。すでに達観の境地に立つ人だと思えます。そのすぐれた感覚をもって他の分野にも目を向けられてはいかがでしょう。と司会者の提案がありました。私も同感です。

11. 万博コスモスフェスタ2000 2分50秒 金子博泰さん

花の丘のコスモス畠を撮っています。花のロング、ミディアム、アップ、そこで遊ぶ人々と一応撮るべきものは揃っていますが、花の丘とコスモスだけではどうにもなりません。やはり公園全体で考えた方が作品になると思います。

12. 蓮池コンサート 5分30秒 江村一郎さん

早朝の万博公園。蓮池のステージで二人の女性によるフルートとハーブの演奏のもようです。ハーブを弾く指先、フルートを奏でる口元。美しい音色に身じろぎもせず聞く人々の表情。その間に蓮の花を巧みにインサート。実にうまい編集をされています。

■インターネット

例会で前田さんのPCにウイルスが侵入したため、気を付けて頂きたい旨の緊急報告がなされました。そのご会員数名の方から幸い汚染の心配はなかったとの連絡で本件は一件落ち着きました。しかし最近悪性ウイルス(マトリックス = W32/MTX)が蔓延し、多くの会社が被害を受けているとの新聞報道がなされています。今回は悪性のマトリックスでなかったため、伝染力はさほどではなく幸い会員諸氏に広がらなかったのですが、今まで他人事のように思っていたウイルス騒動が身近に及んできたのは紛れもなく事実です。ウイルス感染を防ぐ対策として、

①素性の不明なメールに添付されたファイルは決して開かない、知人からの添付ファイル付きメールであっても、開く前に本人に添付したかどうかを確認する。本人が添付した覚えがないといったら、ウイルスであることを疑い直ちに削除する。

②ウイルス・ワクチンを定期的(毎週1回)にアップグレードし、ファイルをスキャン(検査)する。メール及び添付ファイルのスキャンを毎回行うようにワクチンを設定する。

③ワクチンは最初からPCに入っている(バンドルされている)のでもよろしいのですが、もしお求めになるのであれば、ノートンのアンチ・ウイルス(4~5千円)が使い易くお勧めです。

そんな危険な目にあってまで、インターネットをする必要はないというのも一つの考え方ですが、ウイルスを恐れて日進月歩のIT時代に背を向けるのは余りに消極的にすぎるので、十分なウイルス対策を施してネットを楽しみたいと考えています。

VIDEO 11月のインターネット例会作品紹介

「残された自然」河合源七郎作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for 28K modem	882KB 4分46秒
1			